

価格.comトレンドレポート

2012年 もっとも注目を集めた商材は？

価格.comトレンドニュース 2012年注目記事ランキングを発表！

2012年もういよいよ終わりが迫ってきた今回は、「価格.comトレンドニュース」で今年1年間に紹介した中から、アクセス数をもとに、もっとも注目された記事ベスト10をピックアップしてこの1年間を振り返り、2012年のトレンドを総括してお届けします。

表:2012年の注目記事ベスト10 ※各記事へのアクセス数(PV数)から算出

順位	カテゴリ	記事タイトル	公開月
1	家電	不振続くブルーレイレコーダー市場。モデルチェンジで割安感の	3月
2	携帯電話	ドコモ、スマートフォン冬モデル発表！ 一番人気は、夏モデルで	10月
3	カメラ	キヤノン、「EOS Kiss X5 ダブルズームキット」がついに1位陥落。	11月
4	自動車	マツダ、新型クロスオーバーSUV「CX-5」が、人気のトヨタ	3月
5	携帯電話	docomo、スマートフォン夏モデルを発表。一番人気は、シリーズ初	9月
6	パソコン	アップル、第3世代iPad「iPad Wi-Fiモデル 16GB」が発売から	4月
7	携帯電話	ドコモ、秋モデルスマートフォン発表。現在のところ、一番人気は	9月
8	パソコン	Googleの新型タブレット「Nexus 7」が発売開始！ 登場後いきなり	10月
9	カメラ	光学50倍ズームの超高倍率ズームデジカメ、キヤノン「PowerShot	10月
10	カメラ	キヤノン「EOS Kiss X6i EF-S18-135 IS STM レンズキット」が突然	11月

●2012年に注目を集めた記事ベスト10振り返り

1位 不振続くブルーレイレコーダー市場。モデルチェンジで割安感の出ているパナソニックのモデルが売れ筋トップ3を占有(2012年3月6日)

http://kakaku.com/trendnews/kaden/id=daily_790/



1位には、3月に掲載したブルーレイレコーダーに関する記事。ちなみに、家電関連でベスト10にランクインしたのは、この記事のみという結果に。それだけ、家電関連へ注目が集まらなかった年ということになるだろう。

この記事では、2011年7月の「地デジ完全移行化」を境に、売れ行きが急激に落ち込んだブルーレイレコーダー市場の状況を解説するとともに、トップメーカーであるパナソニックの「ブルーレイ DIGA」が、前モデルの発売から半年も経たない短期間で新モデルを投入したことにより起こった、前モデルの値崩れ現象を解説した。2012年は、テレビ関連製品の不振が大きくクローズアップされ、大手家電メーカーの経営状況を大きく左右することにもなったが、このニュースもそういった不振からくる値崩れ状況の一端を伝えたもので、大きな注目を集めた。

2位 ドコモ、スマートフォン冬モデル発表！ 一番人気は、夏モデルで早々に販売終了してしまった「AQUOS PHONE ZETA」の後継モデル「SH-02E」(2012年10月17日)

http://kakaku.com/trendnews/keitai/id=daily_932/



2位はドコモのスマートフォン・冬モデルに関する記事。スマートフォンの人気は相変わらず高い1年だったが、特に話題になったのはドコモのAndroidスマートフォンが中心で、ソフトバンク、auが販売する「iPhone」に関しては、あまり話題とならなかったのが印象的だった。

この記事は、夏モデルとして発売されて一躍人気を呼んだものの、部材(チップセット)の供給不足から、すぐに発売終了となってしまった、シャープ製の「AQUOS PHONE ZETA SH-09D」の後継モデルとして登場した「SH-02E」が人気を呼んでいるという内容。数あるAndroidスマートフォンの中でも、シャープの「AQUOS PHONE」と、ソニーの「Xperia」シリーズは、国内ユーザーに配慮した省電力設計や、扱いやすいサイズのボディなどが人気となり、1年を通じて安定した人気を維持してきた。その一端が垣間見られる記事である。

3位 キヤノン「EOS Kiss X5 ダブルズームキット」がついに1位陥落。代わりに売れ筋No.1になったのは、ニコン「D600」(2012年11月16日)

http://kakaku.com/trendnews/camera/id=daily_943/



3位は、今年当たり年となったデジタル一眼レフカメラ関連の記事。ただし、春先に発売され、大きな話題を呼んだニコンの「D800」やキヤノンの「EOS 5D Mark III」ではなく、エントリーモデルの定番製品として1年以上の長きにわたって人気を誇ってきたキヤノンの「EOS Kiss X5 ダブルズームキット」が、ようやく1位の座から陥落し、世代交代が行われたという話題。この背景には、「EOS Kiss X5」の後継モデルとして6月に発売された「EOS Kiss X6i」の不振があった。

新モデルが登場すると同時に世代交代が行われるのが、デジタル一眼のエントリーモデルにおけるこれまでのセオリーだったが、今年はそうならなかった。その背景として、デジタル一眼のエントリーモデル自体の人气が凋落していることと、ターゲットがバッティングするミラーレス一眼製品の相次ぐ登場がある。やや市場が飽和した感のあるエントリーモデルに対し、いわゆる「本格派」の中高級モデルの技術革新が進み、人気を博したのが、今年デジタル一眼カメラ市場のトレンド。長らくトップにあったエントリーモデルのキヤノン「EOS Kiss X5 ダブルズームキット」を抜いて1位になったのが、中級モデルのフルサイズ機であるニコン「D600」であったというのが、2012年のトレンドを象徴している。

4位 マツダ、新型クロスオーバーSUV「CX-5」が、人気のトヨタ「アクア」「プリウス」を抜いて注目ランキング1位！ 新開発のクリーンディーゼルが話題に（2012年3月28日）

http://kakaku.com/trendnews/kuruma/id=daily_806/



自動車関連の記事は今年1年間で本数自体多くなかった。というのも、人気車種のベスト10がほとんど固着化しており、そのほとんどがハイブリッド車あるいはワンボックスカーという状況が続いたためだ。そんな固着化した自動車の人気ランキングにあって、今年2012年、ほぼ唯一異彩を放ったのが、マツダの「CX-5」であろう。というのも、このハイブリッド全盛の時代にあつて、「CX-5」が採用したのは、国産の乗用車ではほぼ絶滅していたディーゼルエンジン（クリーンディーゼル）だったからだ。このマツダの試みは、多くの自動車好きの関心を買ひ、2月の発売からすぐに大人気となった。価格.comの人気ランキングでは、年末の現在も1位をキープしており、今年2012年でもっとも光った自動車といえるかもしれない。

5位 docomo、スマートフォン夏モデルを発表。一番人気は、シリーズ初「Xi」対応の、ソニー「Xperia GX SO-04D」（2012年9月6日）

http://kakaku.com/trendnews/keitai/id=daily_838/



2位のドコモスマートフォン・冬モデルと同様、夏モデルの記事も5位にランクインした。ドコモは、次世代高速通信規格「LTE」の通信サービス「Xi（クロッシィ）」を他キャリアに先駆けて始めていたが、今年の夏モデルでは、上位モデルすべてがこの「Xi」に対応したことで、いよいよ「LTE」サービスが本格化したことを印象づけた。その後、9月の「iPhone 5」の発売とともに、ソフトバンクとauも「LTE」サービスを本格化することになり、今年2012年は「LTE元年」と呼ぶにふさわしい年となった。なお、夏モデルで人気を呼んだのは、ソニー製の「Xperia GX SO-04D」。2位でも触れた「AQUOS PHONE ZETA SH-09D」と並んで、国産メーカー製の人気スマートフォンとなった。

6位 アップル、第3世代iPad「iPad Wi-Fiモデル 16GB」が発売から2週間でようやく売れ筋ランキングで1位に！ 16GBモデルと64GBモデルで分かれる評価（2012年4月3日）

http://kakaku.com/trendnews/pc/id=daily_810/



3月に発売されたアップルの「新しいiPad」こと「第3世代 iPad」は、「iPhone 4S」に採用された高精細ディスプレイ「Retina ディスプレイ」を搭載したことで、大きな話題を呼んだ。ただし、これまでの初代、2代目の「iPad」に比べると、幾分発売時の初動がにぶくなっており、発売から2週間ほどでようやく売れ筋ランキングで1位になるという状況となった。この背景には、「iPad」以外のタブレット端末（主に Android）がすでに数多く発売されていたことがある。今年2012年は、タブレット端末市場が大きく拡大し、製品としても一般化した年となったが、すでに春先からこうした兆候は見ており、人気の「iPad」といえども、それほど珍しい製品ではなくなっていたことを示唆している。

7位 ドコモ、秋モデルスマートフォン発表。現在のところ、一番人気は、シャープ「AQUOS PHONE si SH-01E」（2012年9月6日）

http://kakaku.com/trendnews/keitai/id=daily_910/



2位、5位とランクインしたドコモのスマートフォンがらみの記事が7位にもランクインした。これは、ドコモの「秋モデル」と呼ばれる製品に関する記事だったが、通常の製品発売スケジュールからすると「秋モデル」という製品群はなく、今年に限っての限定的なラインアップといえそうだ。発売された製品数も4モデルと少なく、どうしても夏モデルの補完的な意味合いが強い。人気となったのは、ここでもシャープ製の「AQUOS PHONE si SH-01E」である。この製品は、2位の記事とも関連するが、夏モデルで人気となった「AQUOS PHONE ZETA SH-09D」が、部材の供給不足で結果的に生産中止となってしまったことを受けての臨時的な製品という雰囲気強い。スマートフォンの世界的な人気にともない、チップセットやタッチパネル液晶といった部材の供給が間に合わなくなってしまったというのも今年2012年の製品トレンドを語るうえでは欠かせない要素だが、この記事もそれに関連したものといえる。

8位 Google の新型タブレット「Nexus 7」が発売 登場後いきなり大注目製品に！（2012年10月3日）

http://kakaku.com/trendnews/pc/id=daily_926/



2012年はタブレット端末が一躍脚光を集めた年となった。それも、これまで主流だった9インチから10インチクラスではなく、ひと回り小さな7インチクラスのタブレット端末が大きな人気を呼ぶ起爆剤となった感が強い。その人気の戦端を開いた存在ともいえるのが、Googleが9月末に発売した「Nexus 7」である。7インチという小型で使いやすいサイズに加えて、16GBモデルで19,800円という価格設定が、とりわけ従来のAndroidユーザーを中心に話題を呼び、発売からすぐに人気爆発。購入したくても購入できないというような状況が1か月以上は続いた。この「Nexus 7」の発売から約1か月後には、アップルが7.9インチ液晶を搭載する「iPad mini」を発表。また、ほぼ同日にかぶせるように、Amazon.co.jpが、やはり7インチの日本版「Kindle Fire HD」の発売を発表し、この3製品が、年末に至るまで、タブレット端末の人気上位を独占する状況となっている。

9位 光学50倍ズームの超高倍率ズームデジカメ、キヤノン「PowerShot SX50 HS」が、発売開始から人気沸騰中！（2012年10月10日）

http://kakaku.com/trendnews/camera/id=daily_929/



2012年のデジタルカメラ市場では、デジタル一眼レフカメラの分野で本格志向が進んだが、コンパクトデジカメにおいても同様の流れが見られた。特に2012年で進化著しい技術としては、撮像素子となるセンサーの大型化と、光学ズームの高倍率化があげられる。センサーの大型化は、「1インチ」という大型センサーを搭載した「サイバーショット DSC-RX100」をはじめ、ついに35mmフルサイズセンサーを搭載するにいたったソニーの「サイバーショット DSC-RX1」なども市場をにぎわせた。これとほぼ平行するような形で進んだのが光学ズームの高倍率化で、従来であれば最大でも30倍程度だったコンパクトデジカメの光学ズームが、一気にその2倍近い50倍にまで延長されたのである。その代表例が、この記事で扱ったキヤノンの「PowerShot SX50 HS」だ。50倍という高倍率ズーム性能は、市場に大きな衝撃を与え、多くの消費者を一気に虜にした。コンパクトデジカメは、技術革新がある程度進んだ結果、性能面での差別化が難しい時代に突入しているが、光学ズームの高倍率化が可能になったことは、市場に明るい光を投げかけるトピックとなった。

10位 キヤノン「EOS Kiss X6i EF-S18-135 IS STM レンズキット」が突然の売れ筋浮上！きっかけは10,000円キャッシュバックキャンペーンか？（2012年11月27日）

http://kakaku.com/trendnews/camera/id=daily_946/



3位にランクインした、キヤノン「EOS Kiss X5 ダブルズームキット」の記事に関連しているが、「EOS Kiss X5」の後継モデルとなる「EOS Kiss X6i」が、発売から半年近く経って、ようやく売れてきたというもの。本来であれば、もっと早い時期に、前モデルから完全にモデルチェンジして、売れ筋の上位に入って当然とみられていた「EOS Kiss X6i」だが、デジタル一眼カメラのエントリーモデルの人気凋落と、ライバルとなるミラーレス一眼製品の相次ぐ発売によって、これまでのような爆発的なスタートダッシュを切ることができなかった。また、価格があまり下がらず、エントリーモデルとしては高価格帯でとどまり続けたことも、ヒットを遅らせる大きな原因となっていた。しかし、年末にかけてキヤノンが実施している「EOS Kiss X6i 家族のお年玉キャンペーン」によって、10,000円がキャッシュバックされることもあって、11月後半から急激に人気上昇した。製品自体が魅力的なスペックを備えているだけに、価格面のハードルが高かった「EOS Kiss X6i」だが、実質値引きというテコ入れによって、ようやく人気を得るに至った。しかし、依然として、デジタル一眼レフのエントリーモデルを取り巻く状況は変わっておらず、来年にかけても不安はぬぐえない状況といえる。

●2012年注目を集めたのは「スマートフォン/タブレット」と「本格志向のデジタルカメラ」

以上年間ベスト10を見てきたが、ひと目見てわかるのは、ベスト10の記事中、3本がスマートフォン関連で、2本がタブレット端末に関するものであること。この2者は価格.com上では、異なるカテゴリとして置かれているが、3GやLTEなどの通信回線を利用するかどうかの違いこそあれ、基本的には同カテゴリの製品となる。つまり、ベスト10のうち半分が、スマートフォン/タブレット端末関連で占められており、名実ともに、2012年はスマホとタブレットが話題の中心であったことがわかる。特に、秋以降に本格化した「7インチタブレット」の注目度は高く、アップルの「iPad mini」や、Googleの「Nexus 7」といった製品が今でも人気を保ち続けている。12月18日には、Amazonから「Kindle Fire HD」という7インチタブレットも発売され、この3製品が、この年末も話題の中心となっている。

なお、カメラ(デジカメ)関連の記事も3本ランクインしている。それぞれ記事の方向性は異なるが、今年のデジカメ界の大きなトレンドとして、「本格志向」ということがあった。年明けすぐの2月に催された展示会「CP+ 2012」で発表されたニコンの高級一眼レフカメラ「D800」を皮切りに、各社から高級カメラが相次いで発表され、大きな話題となった。ここ数年、成長がやや鈍化していたデジカメ市場であるが、原点回帰ともいえるこの本格志向によって、特にカメラに詳しい中高年を中心に、20万円を超える高級モデルがかなりの人気となった。この「本格志向」の流れは、コンパクトデジカメでも見られ、5万円前後の「高級コンデジ」と呼ばれる製品ジャンルが非常に人気を博し、1インチという大きなサイズのセンサーを搭載するものや、これまで想像だにできなかった50倍という光学ズームを搭載するハイズーム機などが、特に注目の的となった。

逆に、ふるわなかったのが、家電関連の記事だ。昨年2011年まで、常に話題の中心であり続けた「液晶テレビ」の人气が、2011年7月の「地デジ完全移行化」とともに急落。以降、新モデルが登場してもほとんど注目されず、売れ行きも想像以上の落ち込みとなったのは、報道などでご存じの方も多いただろう。唯一、デジタル→デジタルへの買い換え需要を狙った50インチ以上の大型モデルが人気となったが、それ以外のクラスではヒット作が出ず、価格.comでも人気の東芝「REGZA」も、例年であれば中核モデルを投入する5月に製品を発売しないなど、テレビ関連の不調が目立った年だった。関連商材のブルーレイレコーダーも不調で、その結果、これまでにないほどの値崩れが起こり、1TBのHDDを搭載しながら3万円台というような製品も登場した。なお、比較的堅調といわれる白物家電に関しても、2012年はこれといった大きなイノベーションが起こらなかったため、かつての「ヘルシオ」や「ゴパン」「ルンバ」といった新しい価値を提供するような製品が登場しなかった。そういう意味でも、家電製品に関しては、話題性に乏しい1年だったといえるだろう。

【価格.com サイトデータ】(2012年11月末現在)

月間利用者数 3,921万人、月間ページビュー9億9,714万PV、累計クチコミ件数約1,500万件
<利用者内訳>PC: 2,933万人 スマートフォン: 850万人 フィーチャーフォン: 138万人

データの引用・転載時のクレジット表記について

本レポート結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。
例)「価格.comトレンドサーチ」調べ、「価格.com」のデータ分析によると...など

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社カカコム 広報室 甲斐 内山 石橋
Tel: 03-5725-4554 e-mail: pr@kakaku.com